

プロジェクト研究所

資源循環・廃棄物マネジメント研究所

所長 鈴木 浩

1. 研究概要

研究の対象は、一般廃棄物および産業廃棄物の排出、運搬、処理処分、これまで廃棄されてきたモノの再利用、資源化である。本研究所は、排出者、運搬者、処理処分者の観点で廃棄物にかかわる事業を区分し、それぞれが単独、あるいは、連携して、減量化、再使用、再生利用、資源化といった3R (Reduce+Reuse+Recycle)などを推進するための資源循環、廃棄物のマネジメントに取り組み、必要となる要素技術、経営情報管理、法制度を検討する。

本研究所の目的は、資源循環、廃棄物のマネジメントにおいて、地域住民と産業界が求めるニーズの達成、課題の解決と、研究者が持つ科学技術、知的財産、シーズの拡大深化、基礎研究の推進である。

また、本研究所の特色として、理工学の研究分野に人文社会学の研究者が、人文社会学の研究分野に理工学の実験者が、それぞれ参画することで文理融合の長所を活かした研究推進体制の整備があげられる。また、廃棄物の運搬、処理処分を行っている事業者、地域の廃棄物処理計画に携わる国内外の研究者と連携した研究推進体制となっている。これにより、現代社会、法制度、科学技術などに配慮した実効性の高い研究成果を創出することができる。

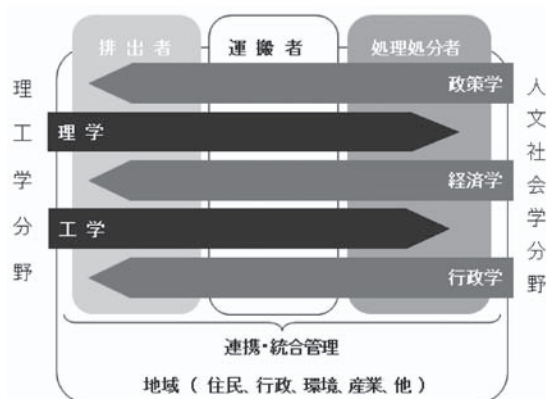


図1 研究の着眼点となるニーズとシーズの分布

2. 構成員

福島大学資源循環・廃棄物マネジメント研究所は、次のとおり、学内の教員と学外の有識者で構成されて

いる。

<研究代表者（研究所長）>

・共生システム理工学類 鈴木 浩教授

<研究分担者>

・行政政策学類

中井勝己教授、清水 晶紀准教授

・共生システム理工学類

金澤 等教授、董 彦文教授、

入戸野 修教授、星野 瑛二教授、

浅田 隆志准教授、大山 大准教授、

杉森 大助准教授、難波 謙二准教授、

樋口 良之准教授

・地域創造支援センター 丹治惣兵衛教授

<連携研究者>

山形大学 人文学部法経政策学科 教授

國方 敬司 殿

日立建機 開発・生産統括本部事業戦略室

中村 輝雄 殿

大連理工大学管理学院 教授 金 淳 殿

福島県産業廃棄物協会 専務理事 木村 光政 殿

3. 研究内容

本研究所の主な活動内容は次のとおりである。

3.1 排出の視点

- ・オリジナルの廃棄物減量化、再利用、再資源化のコア技術の開発
- ・一般廃棄物の減量化と有料化に関する法律、政策、地域での実状などの調査

3.2 運搬の視点

- ・全国の収集運搬システムの調査と収集運搬モデルの最適設計
- ・収集運搬車両性能と運用モデル、最適設計と最適運用
- ・会津若松方式などの優れた地域実践例の調査と応用実証試験

3.3 処理処分の視点

- ・最終処分された廃棄物の再利用、再資源化の事例、法律、政策などの調査
- ・中間処理施設、最終処分場における新技術導入に

- ・ 伴う、周辺住民との調整に関する制度設計
- ・ 管理型処分場の低環境負荷運転に関する調査

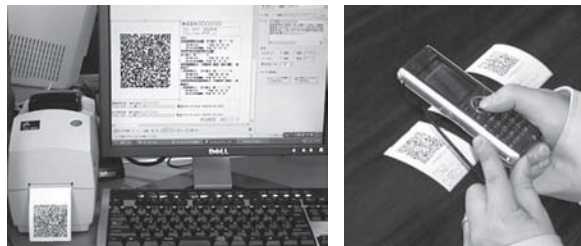
3.4 連携管理の視点

- ・ 不確実性を考慮した生産物流-廃棄のシステムの最適設計
- ・ ユーザニーズを考慮したモバイルコミュニケーションと産業廃棄物管理が連携したシステムの設計開発
- ・ 一般廃棄物の課金と管理システムの設計開発
- ・ 排出者、運搬者、処理処分者をモデリングした統合システムシミュレーション解析

4. 研究成果の一例

研究所が設置されて1年が経過するが、とりわけ、産業廃棄物と一般廃棄物の管理について、大きな研究成果が得られている。

産業廃棄物の管理では、図2と図3に示すように、政府が進める電子マニフェストと連携し、廃棄物とそのデータの同期性を確保し、不法投棄の抑制にも効果が期待できるシステムを開発し、商品化した。



(a) デスクトップ端末 (b) 携帯電話端末
図2 QRコードを活用した産業廃棄物管理システム



図3 商品化された産業廃棄物管理システム

開発したシステムは次の特長を有している。

- ・ JWNETと連携し、データの入力、保管、関係者への送信、照合などの作業の正確、簡素化、公的データセンターでの一元管理などの特長を活かす。

- ・ 廃棄物現物と電子データの同期性を確保し、排出者、運搬者、処理・処分者、監督者などの廃棄物に携わる者が簡便に目で見える管理を実行できる。
- ・ 現存する ASP 事業者と同等以上の利便性を追求し、かつ、導入コストを抑制し、小規模事業所でも活用しやすいように配慮する。

一般廃棄物については、特に、家庭ごみの有料化に伴う手数料管理に着目した研究を行った。家庭ごみの有料化で多用される認定袋を活用している地方公共団体にヒアリングを行い、課金業務の流れ、システムの構成を明らかにした。それらの形態、実施方法について、納管理と在庫配送の業務主体者に着目した分類を行い、有料課金の管理方式について分類し、例えば、図4に示すシステムの表記を試みた。この結果、認定袋の数量と代金の管理、認定袋の在庫と配送の実施、それぞれの実施主体によって、次の3つに分類し特長を明らかにした。

- (1)直轄管理・直轄実施方式
- (2)直轄管理・委託実施方式
- (3)委託管理・委託実施方式

ここで、直轄とは管理系や実施系を地方公共団体が直接担当し、委託とはそれらを民間企業などが担当することである。

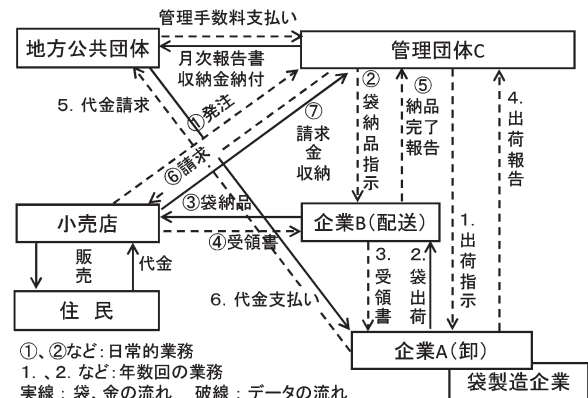


図4 委託管理・委託実施方式による有料課金

なお、この家庭ごみ有料化の研究成果を発表したセミナーや講座は、福島市、山形市、田村市、酒田市、会津坂下町などで実施し、聴講者の反響が大きく、今後の研究の進展に大きな期待がかかっている。

権利擁護システム研究所

所長 新村 繁文

1. 研究目的

判断能力に困難が伴う者への包括的権利擁護システムの構築が社会的要請になっているが、システム構築のあり方について、成年後見制度や日常生活自立支援事業、介護保険法制、障害者自立支援法制・虐待法制等を含めて、包括的に研究することを目的としている。

そして、その基礎的な作業として、各地の権利擁護関連諸機関・諸団体への調査活動と、権利擁護の支援者養成に関連する事業のあり方の実践的研究に重点を置いて、当面の活動目的とした。

2. プロジェクト研究所メンバー

<研究代表者>

新村 繁文

<研究分担者>

千葉 悦子

塩谷 弘康

富田 哲

鈴木 典夫

丹波 史紀

清水 晶紀

山崎 暁彦

近藤 雄大

3. 研究活動

各地の権利擁護関連諸機関・諸団体への調査活動として、これまでに、郡山せいわ園、山形市社会福祉協議会、権利擁護センターあだち、世田谷区権利擁護センター「あんしん世田谷」、山口県社会福祉協議会権利擁護センター等を対象とした聞き取り調査を行い、今後、宮崎県社会福祉協議会、NPO 法人「岡山高齢者・障害者支援ネットワーク」に対する聞き取り調査を予定している。

また、権利擁護の支援者養成に関連する事業のあり方の実践的研究として、文科省の「学び直し」プログラムの実施に関わると同時に、そこでの実践を踏まえ

て、テキストの出版をめざして、現在その執筆・編集作業に従事している。

4. 研究成果

まず、権利擁護システム研究所設立記念講演会として、宇都宮健児弁護士による「現代日本の貧困と反貧困運動～市民の権利を護り続けて～」を実施した。福祉や法律関係の専門職をはじめとして行政関係者、社会福祉協議会、地域包括支援センター等の関係者、病院ソーシャルワーカーから一般市民まで約150名の参加を得て、講演と、その後の反貧困運動の展開と課題等をめぐる質疑が、予定時間を超えて活発に行われた。

さらに、テキストの執筆・編集にはいっており、年度末に出版の予定である。そのため、現在、以下のテーマにつき、研究分担者を中心に分担執筆に取りかかっている。各自のテーマは、権利擁護の基礎理論、公的責任としての社会保障・社会福祉、家族をめぐる権利と義務、権利擁護に必要な財産管理の制度、福祉サービスに関わる制度のあり方、判断能力の十分でない人を支える制度、消費者としての判断能力弱者の権利擁護、虐待対応のための制度と実務、セーフティネットの再修復、相談援助の制度と実務、福祉サービスにおける苦情処理の制度と実態、権利擁護実務におけるコンプライアンス、権利擁護のためのネットワークの構築に向けてなどである。

こうした内容のテキストに基づいて、次年度以降、権利擁護の支援者養成のための一層充実したプログラムを開発して行く予定である。

日 時
9/26
午後2時30分～

講 題
現代日本の貧困と反貧困運動
～市民の権利を守りつづけて～

講 師
宇都宮 健児 (弁護士)

主 催
福島大学
会 場
福島県農業総合センター
郡山駅前共同ビル地下115番地

連携団体
福島県弁護士会、福島県司法書士会、福島県行政書士会、福島県信用保証協会、福島県産業年金会、福島県商工労働者会連合会、福島県労働組合連合会、福島県学生協会の会合、福島県学生会連合会、福島県学生自治会連合会、福島県学生連合会、福島県学生連帯センター

お問い合わせ先
福島大学 行政政策学類
〒960-1295 福島市金町1丁目1番地
TEL：024-548-6253
FAX：024-548-5174

入場無料



目 的

「福島大学」の発展とともに、人々の間で希望の風気が漂う。『ワーキング・プア』(ネットカフェ利用)に集約される貧困問題がクローズアップされる所です。昨年秋から今年にかけては、貧困問題の中心で取り組まれている『経済生活』(経済生活)に集約されています。私たちが『生きる権利』を目的とし、継続している『人生』によって、貧困問題の発展に貢献しているという思い、あるいは『生きる権利』を支えたいという思い、いかなる『生きる権利』に貢献したいのかを考えています。

目的が明確になり、とりわけ経済力が不足している人々の生活への支援の方法を、講義や見学・ツアー、ワークショップを通して多角的に学びました。そこで、そうした『マニフェスト・プログラム』の具体的な取り組みとして、消費者保護や消費者教育の推進、いじめ防止など、あらゆる実践的な活動も視野に立てられている『マニフェスト・プログラム』も、具体的な取り組みについて、積極的に考えていくことと想っています。

交通アクセス

福島県農業総合センター
〒960-0531 郡山駅前共同ビル地下115番地
TEL:024-960-1700

●木更谷ICから 車で約7分
●郡山ICから 車で約20分
●郡山駅南口から タクシーで約20分
●郡山駅前中心から タクシーで約10分
●郡山駅前中心から タクシーで約5分
または徒歩で約30分

お申し込み方法

FAX.024-548-5174 (〒960-1295) 届出申し込み期間
申込URL: <http://www.ada.fukushima-u.ac.jp/manabinoshi/> 平成21年9月18日(日)

講演会 申込書

| | | | |
|------|--|----|--|
| 氏名 | | 性別 | |
| 年齢 | | 職業 | |
| 住所 | | | |
| 電話番号 | | | |
| メール | | | |



宇都宮弁護士講演会チラシ

講演会の様子

地域ブランド戦略研究所

所長 西川 和明

1. 研究目的

企業がマーケティングにおいて自社ブランドの認知度を図るための戦略を取るのと同様に、いわゆる「地域産品」のマーケティングにおいても、消費者に受け入れられるための「地域ブランド戦略」が重要であ

る。ところが、企業に比べて地域においてはその取り組みが不十分であるために、製品としてはいいものであっても販路を確保するに至っていないものが数多く見受けられる。地域の自治体、企業、グループが「地域ブランド」育成を行う際の戦略的取り組みを支援することを目的として研究を行う。

2. メンバー

| | | |
|------------------------|---|---------------------------------|
| 代表 | 経済経営学類教授 | 西川 和明 |
| 研究分担者 (プロジェクト研究員) | 経済経営学類准教授 経済経営学類准教授 福島大学地域創造支援センター教授 農山村定住促進研究所代表 | 尹 卿烈 小山 良太 丹治惣兵衛 吉沢 保貴 |
| 連携研究者 (プロジェクト客員研究員) | 東海大学副学長 郡山女子大学准教授 中小企業診断協会福島県支部理事 株式会社タカラ印刷常務取締役 (ニュービジネス協議会) | 西村 弘行 平出美穂子 菅野 覚 林 由美子 |

3. 研究活動

(1)2008年度

NPO 東和ゆうきの里ふるさとづくり協議会（二本松市）の地域ブランド化事業を支援

(2)2009年度

- ①白河市の農産物ブランド化を支援
- ②福島県主催「食彩ふくしま地産地消フェスタ 2009」にブースを設けて出展
- ③中小企業交流フォーラムの開催を支援（11月5日コラッセふくしまで開催）

を得ることができ、下記の通り9回の研究会を開催した。

平成20年6月13日、7月10日、9月5日、9月30日、10月30日、12月8日、平成21年1月22日、2月13日、2月24日

具体的な成果としては、この地域ブランド化活動など東和ゆうきの里ふるさとづくり協議会の地域自立化に向けた活動が評価されて、同協議会は総務省から平成21年度の過疎地域自立活性化優良事例として、総務大臣賞を受賞した。

4. 研究成果

(1)2008年度

NPO 東和ゆうきの里ふるさとづくり協議会（二本松市）の地域ブランド化事業

経済産業省の中小企業地域資源活用コーディネート活動等支援事業の助成を申請したところその助成

(2)2009年度

①白河市の農産物ブランド化

当事業の具体的な実施要領がまとまり、白河ブランドを来年度から実施すべく、現在、実施機関である白河ブランド戦略委員会（仮称）の人選と、ロゴマークを全国から募集することで準備中

である。

②中小企業交流フォーラムの開催を支援（11月5日コラッセふくしまで開催）

中小企業交流フォーラムでは代表の西川和明教

授およびプロジェクト研究員の尹卿烈准教授、小山良太准教授がそれぞれコーディネータとして、地域ビジネスの創出・地域ブランド化に関する活動を行った。

芸術による地域創造研究所

所長 渡邊 晃 一

1. 研究目的

芸術による文化活動を通じた街づくり
地域の活性化に関する実践的研究

2. プロジェクト研究所メンバー

<研究代表者>

渡邊晃一（人間発達・准教授）

<研究分担者>

天形 健（人間発達・教授）

熊田 喜宣（人間発達・教授）

嶋津 武仁（人間発達・教授）

初沢 敏生（人間発達・教授）

澤 正宏（人間発達・教授）

澁澤 尚（人間発達・教授）

星野 瑛二（共生システム理工・教授）

辻 みどり（行政政策・教授）

田村奈保子（行政政策・教授）

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

佐々木吉晴（いわき市立美術館・副館長）

川延 安直（福島県立博物館・主任学芸員）

杉原 聡（郡山市立美術館・主任学芸員）

増淵 鏡子（福島県立美術館・主任学芸員）

橋本 淳也（福島県立美術館・主任学芸員）

天野 和彦（福島県文化スポーツ局・社会教育主事）

水谷 大（福島県文化スポーツ局・社会教育主事）

太田 隆明（福島県教育センター・指導主事）

笠原 広一（京都造形芸術大学・芸術教育士）

柴崎 恭秀（会津大学・准教授）

安室可奈子（桜の聖母短期大学・非常勤講師）

宗像 利浩（宗像窯窯元／陶芸家）

研究

国内、国外の事例を広く収集し、成功要因に関する分析研究

(3) 県内モデル地域における文化政策研究

文化資源の洗い出し、文化資源のネットワーク化に関する政策研究

(4) 芸術イベントによる街づくりの実践研究

モデル地域における文化政策と芸術イベントの展開

(5) 学生のイベント体験を通じた文化による地域づくり学習効果の検証

2) 研究計画

2009年 国内や国外における先進成功事例の収集

研究概要 (1)(2)に関する研究会およびシンポジウムの開催

県内モデル地区の選定およびモデル地区に関する文化政策の検討

会津美里における実践研究「風と土の芸術祭'09および関連企画」

2010年 研究概要 (1)(2)に関する研究成果の報告およびシンポジウムの開催

県内モデル地区に関する文化政策のあり方研究

実践研究「福島現代美術ビエンナーレ'10および関連企画」

2011年 研究の中間総括とシンポジウム等の開催

会津美里における実践研究「風と土の芸術祭'11および関連企画」

2012年 実践研究「福島現代美術ビエンナーレ'12および関連企画」

理論研究および実践研究の報告書作成とシンポジウムの開催

3. 研究活動

1) 研究概要

(1) 芸術文化による街づくりの必要性に関する研究
街づくりにおける芸術や文化の意義に関する理論研究

(2) 芸術文化を通じた街づくり・地域の活性化の事例

4. 研究成果

2009年度は以下の研究を実施し、一定の成果を得ることができた。

1) けんぱくで見直すカラダ（文化庁より助成文化芸

術による地域創造)

実行委員

- ・渡邊 晃一 (芸術による地域創造研究所所長)
- ・嶋津 武仁 (芸術による地域創造研究所 研究員)
- ・初沢 敏生 (芸術による地域創造研究所 研究員)
- ・濫澤 尚 (芸術による地域創造研究所 研究員)
- ・川延 安直 (福島県立博物館／研究所連携研究者・プロジェクト客員研究員)
- ・佐々木吉晴 (いわき市美術館／研究所連携研究者・プロジェクト客員研究員)
- ・ほか

ダンスパフォーマンス／ワークショップ

- ・平山 素子 (筑波大学准教授)
- ・森 繁哉 (東北芸術工科大学教授)

2) けんぱくで見直すカラダ／対談「見直すカラダ」
(福島県立博物館)

日時 2009年7月5日(日)

会場 福島県立博物館視聴覚室

鼎談

- ・渡邊 晃一 (芸術による地域創造研究所所長)
- ・平山 素子 (筑波大学准教授)
- ・赤坂 憲雄 (福島県立博物館館長)

3) 福島大学芸術による地域創造研究所と福島県立博物館との共同企画サミット

「<会津>まちの記憶を掘り起こす」

日時 2009年8月30日(日) 午後1時30分～

会場 福島県立博物館講堂

景観・歴史・人材・産業・資源。地域にはその地域独自の資産がある。人々の心に、また街の各所に刻まれた「記憶」も大切な資産の一つではないだろうか。自然環境・歴史に恵まれた会津には、戊辰戦争という痛みをともなう歴史がある。この歴史の「記憶」をとどめることは、会津地域の街づくりに欠く事が出来ない。

今回のシンポジウムでは、広島やパリのユダヤ人街など各地の街の歴史の痕跡をフロッタージュの技法により記録するアーティスト・岡部昌生氏を招き、アートによる街の活性化について会津の地域活性化のリーダーたちと語り合う。

司会

- ・川延 安直 (福島県立博物館／研究所連携研究者・プロジェクト客員研究員)

パネリスト

- ・渡邊 晃一 (美術家／福島大学芸術による地域創造)
- ・岡部 昌生 (美術家／札幌大谷短期大学教授)
- ・渋川 恵男 (有渋川問屋代表取締役／七日町通りまちなみ協議会会長／会津若松商工会議所副会頭)
- ・照島 敏明 (會津壹番館経営／
(有)スチューデント・ライフ・サポート代表取締役)
- ・小林めぐみ (福島県立美術館学芸員)

4) 『AAC 会津 art college [パフォーマンスフェスティバル]』

日時：2009年9月11日(金)～9月13日(日)

場所：会津三島町

企画

- ・星野 珙二 (共生システム理工・教授)

参加

- ・嶋津 武仁 (芸術による地域創造研究所 研究員)

5) 『風と土の芸術祭 Artown in Misato 2009』

400年の歴史を持つ「会津本郷焼」で知られている陶磁器の里で開催される芸術の祭典

日時：2009年9月19日(土)～9月23日(水)

場所：会津美里町本郷地域

主催：会津みさと祭り実行委員会

企画監修

- ・渡邊 晃一 (芸術による地域創造研究所所長)
- ・川延 安直 (福島県立博物館／研究所連携研究者・プロジェクト客員研究員)

6) シンポジウム「《美育力》による響宴」(福島大学創立60周年記念事業)

日時 2009年9月19日(土) 午後1時00分～

会場 会津美里町本郷庁舎2F

司会・コーディネーター

- ・渡邊 晃一 (福島大学准教授／
芸術による地域創造研究所所長)

スーパーバイザー

- ・伊藤 公象 (美術家/風と土の芸術祭招待作家)

パネリスト

- ・天形 健 (研究所研究分担者)
- ・宗像 利浩 (会津本郷 宗像窯当主/研究所連携研究者・プロジェクト客員研究員)
- ・川延 安直 (福島県立博物館／研究所連携研究

- 者・プロジェクト客員研究員)
- ・外館 和子 (茨城県つくば美術館)
 - ・吉田 重信 (美術家/風と土の芸術祭招待作家)
- 7) 「岡本太郎の博物館・はじめる視点」
- 会期 2009年10月10日～11月23日
- 会場 福島県立博物館 常設展示室
- 主催 福島県立博物館
- 実行委員
- ・川延 安直 (福島県立博物館/研究所連携研究者・プロジェクト客員研究員)
 - ・小林めぐみ (福島県立博物館主任学芸員)
 - ・渡邊 晃一 (福島大学准教授/芸術による地域創造研究所所長)
 - ・吉田 重信 (美術家)
 - ・伊藤 達也 (東京芸術大学助教)
 - ・伊藤 将和 (東京芸術大学技官)
- 8) 「福島子どもみらい映画祭」
- 会期 2009年10月24日～11月25日
- 会場 ビッグパレットふくしま
- 主催 福島県文化スポーツ局
文化庁「地域文化芸術振興プラン」
- 実行委員
- ・天野 和彦 (福島県文化スポーツ局・社会教育主事/研究所連携研究者・プロジェクト客員研究員)
 - ・水谷 大 (福島県文化スポーツ局・社会教育主事/研究所連携研究者・プロジェクト客員研究員)
- 参加
- ・渡邊 晃一 (研究所所長)
 - ・天形 健 (福島大学教授/芸術教育学/研究所研究分担者)
- 9) 創作オペラ「いのち甦る」
- 日時 2009年12月23日
- 会場 福島県文化センター
- 主催 福島県文化振興事業団
文化庁「地域文化芸術振興プラン」
- 実行委員長
- ・嶋津 武仁 (芸術による地域創造研究所 研究員)